



GAF Aの侵攻にどう備えるか

ピー・アンド・イー・ディレクションズ
マネージャー 荒木正弘

であるGAF Aの取り組みを題材に、医薬品企業が今後成すべきことを議論していきたい。

GAF Aの各社はいずれも、医薬業界への参入に積極的だ。各種サービス提供やM&Aを活発に実施している4社に共通して言えることは「自社のプラットフォームを活かした既存の業界プレイヤーとは異なる独自の価値提供を志向している」ということである。

グーグルは、19年11月にフィットビットを21億ドルで買収すると発表している。フィットビットはウェアラブル技術の大手企業であり、スマートウォッチを中心に各種健康管理ソフトウェアを提供している。フィットビット自身もこれまで各種のライフサイエンス企業を買収してきていることから、同社を取り込むことでグーグルは医薬分野への進攻を大きく前進させる構図となる。

グーグルは、もともととは一部門だったライフサイエンス部門をベリリーとして独立させ事業展開している。スマートコンタクトレンズや採血デバイスといった各種デ

バイスの開発により、ウェアラブルデバイスを応用した予防医療を実現する志向だ。

グーグルは、もともとの強みであるデータとAI、開発・獲得した各種デバイスと掛け合わせて医療AIビジネスを本格化させようとしている。現時点ではプライバシー問題や反トラスト法違反を避けるため、「各種デバイスで収集した健康データを利用・転売するよ

うなことはない」と公言しているものの、検索エンジンを通じて得られるデータと併せると、同社は個人のあらゆる側面でのデータを蓄積していることになる。医療の現場でも、技術進歩や治療精度の向上にビッグデータの重要性が叫ばれているなか、グーグルは医薬業界のプラットフォームを担う世界観を描いているに違いない。

アップルもヘルスケア分野を戦略的分野に据え、積極展開を進めている。モルガン・スタンレーは、アップルのヘルスケア事業は21年までに150億ドル、27年までに3130億ドルに達すると予測している。同社は「アップル・ウォ

ッチ」を武器に医療・健康分野での取組みを強化しており、データ収集デバイスとして歩数や消費カロリーに加えて血圧や心拍を測定でき、アップル・ウォッチ4以降では心電図まで対応し、本格的な医療用途の道を切り開いている。

M&Aにも積極的だ。16年に医療データ管理プラットフォームを開発したグリンプスを買収しヘルスキットの技術基盤を強化。17年は睡眠モニタリングデバイス販売するベッドデイトを、18年には喘息のモニタリングデバイスを開発しているTUEOヘルスを買収し、健康管理を高度化するための各種デバイスを獲得している。

フェイスブックは19年、初のヘルスケアツール「Preventive Health」を公開している。健康診断やワクチン接種、がん検診などの受診を定期的に促す新たな健康管理ツールだ。当面は米国内のユーザーを対象に、米国における2大死亡原因である心臓病、がんに加え、インフルエンザを対象に展開し、その後、対象とする病気やサービス提供国を拡大する予定だ。米

国 もうひとつ大事なことは、生じ得る変化の芽が見えた際に、どのような対応をとるのか、予め決めておくことだ。巨大IT企業の取り組みが脅威・機会のいずれにもなり得るなかで、「戦う」「手を組む」といった対応を変化に応じて迅速に取れるようにしておきたい。

例えば、ビジネス領域特化の日本最大級ナレッジシェアプラットフォーム「ビザスク」は「真似る」を採った典型的な例だろう。米国で「GLG」といった各種業界・テーマの知見を有した有識者へのヒアリングサービスが拡大していることに目を付け、米国のプレイヤーが言語問題やネットワーク構築に手間取っている間に日本での市場を形成している。

各種テクノロジの進化が著しく、「VUCA」(Volatility 不安定、Uncertainty 不確実、Complexity 複雑、Ambiguity 曖昧さ)と表されている現在のビジネス環境においては、医薬業界でも、変化をプロセスとして受け止めて、学び変革し続ける姿勢が重要となるはずだ。

図 GAF Aの医薬領域における取組まとめ

企業名	医薬領域における取組方向性 (P&E仮説)
グーグル	<ul style="list-style-type: none"> ■各種デバイスの開発によるウェアラブルな予防治療 ■上記デバイスから収集した健康データと検索エンジンから得られる嗜好データを活かした医療へのデータ×AIの活用
アップル	<ul style="list-style-type: none"> ■「アップル・ウォッチ」を基軸とした健康管理で座椅子の強化
フェイスブック	<ul style="list-style-type: none"> ■フェイスブック上での健康管理ツールの提供 ■(現在は頓挫しているが)保有するデータの医療分野への活用
アマゾン	<ul style="list-style-type: none"> ■オンライン薬局の運営

がん協会などの複数の保健機関とも提携している。

過去には医療研究のために同社が保有するデータをスタンフォード大学医学部や米国心臓学会などの医療関連機関と共有することを計画していた。現在はデータ・プライバシーに係る度重なるスキャンダルにより同計画は停止しているものの、同社が提供するSNSサービスを通じて取得される個人の日々のライフスタイルデータと医療データとを紐付けた新たなプ

ラットフォームを構築する日もそう遠くないかもしれない。

アマゾンも医薬業界への参入を加速させている。米国のニュース専門局CNBCによると、アマゾンは社内に「1492」と呼ばれる秘密のプロジェクトを立ち上げ、デジタル医療記録や遠隔医療システムといった医療テクノロジの研究を行っているようだ。

18年にはオンライン薬局ビルパックを推定10億ドルで買収し、医薬品供給ビジネスを展開するため、の足掛かりを手に入れた。アマゾンのマーケットプレイス上で医薬品を販売し、独自の物流網を活かして全国くまなく短期で配送可能となった昨には医薬業界のほぼ全ての関係者にとってバリューチェーンは刷新されるだろう。ビルパック買収が発表されたと同時に米国の薬局チェーンの株価は暴落したことからも、医薬業界におけるアマゾンの影響は多大である。

今後は中国発プラットフォームのビック3「BAT」(バイドゥ、アリババ、テンセント)の動向にも注意していきたい。中国市場を

席捲するBATが今後、医薬業界でどのような取り組みを行っているのかは、日本の医薬業界においても影響は大きいのではないかと懸念している。変化に応じたシナリオ構築を

GAF AやBATといった巨大IT企業が医薬業界における取り組みを加速させているなか、既存の医薬業界のプレイヤーはどのような対処していくべきだろうか。まずは、これら巨大IT企業の取り組みや動向を察知したうえで、予め生じ得る変化を推察し、変化に備えるための大雑把なシナリオを構築しておくことが必要だ。